

国語 第1学年 せつめいする 文しょうを よもう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧。読むことなのか、説明文の書き方を教えたいのか。

返し: ねらいはC(1)ア「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」とC(1)ウ「重要な語や文を考えて選び出すこと」の2つ。書き方を教える単元ではなく、順序を使って内容の大体を捉える読み方を身に付ける単元。第3次で書くのは、読み取った順序を使えるかを見る言語活動（C(2)ウ）で、書くことの指導事項は評価しない。

指摘 2: 評価規準は何か。3観点をどう見るのか。

返し: 国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。知識・技能は指導事項の文末を「～している」にした2つ（(2)ア、(1)カ）。思考・判断・表現は「読むこと」においてC(1)ア・ウを「～している」にした2つ。態度は「進んで（粘り強さ）、順序を考えながら内容の大体を捉え（重点）、学習の見通しをもって（調整）、乗り物のはたらきと作りを友達に話そうとしている（言語活動）」の1つ。見る場面は、表と線引き（思考・判断・表現）、見出しとつなぐ言葉の発言（知識・技能）、第3次の発表と振り返りカード（態度）。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: C(2)ア「事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動」を単元の中心に置き、第3次でC(2)ウの、図鑑などを読んで説明する活動につなぐ。

指摘 4: 個に応じた指導はどうするか。

返し: 線の色を分ける、表の形を単元を通して固定する、絵で答えた子は「どの文に書いてある？」で文に戻す、の3つを全員への手立てにする。読むのが遅い子は全員での音読のあとに始め、早い子には1つ目との比べを渡す。学習上の困難がある子には、第3の1の(9)の、障害のある児童などの困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫に沿って、本文の拡大コピーや行ごとに区切ったプリントを用意する。

指摘 5: ICTは使うのか。

返し: 第3の2の(2)の、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けて指導の効果を高める工夫に沿い、あれば本文の該当部分を大きく映して線を引く操作の共有に使う。無くても拡大コピーで同じようにできる。目的はどの文かを全員で確かめること。

指摘 6: 教科書どおりに進めるだけでいいのか。

返し: 教科書は第3の3の(1)の、各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うための教材で、何を身に付けるかは指導要領の側にある。この設計図は指導事項（C(1)ア・ウ、(2)ア、(1)カ）から組んであるので、教材名が違う教科書でも同じ設計図で進められる。

指摘 7: 時間が足りないのではないか。

返し: 光村図書出版の年間指導計画の全7時間に合わせた。C(1)ア・ウで目指す順序と重要な語句を捉える活動を残し、紹介の量を学級に合わせて調整する。読むことの計画として、書く形式自体は主評価にしない。

指摘 8: 発問が多い。

返し: 本時の発問は「はたらきを書いた文はどれ」「作りを書いた文はどれ」「どの言葉でつながっている」の3つに絞る。それ以外は確かめの声かけで、問いとして板書しない。発問を減らす代わりに、線を引く・表に書く作業で子どもが答えを出す形にしてある。

指摘 9: 板書の意図は。

返し: 表の形そのものが、文章の順序（はたらき、つなぐ言葉、作り）を目に見える形にしたもの。(2)アの情報と情報との関係の理解を、乗り物を行、観点を列にして横に比べられる形にする。単元を通して同じ表を使い、最後は子どもが自分の乗り物の行を書く。

指摘 10：振り返りをどうするのか。

返し：毎時の終わりに、表を見て隣に一文で言うことと、カードに短く書く（丸でもよい）ことの2つ。第3の2の(1)アの、日常の言語活動を振り返り、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるようにする指導に沿う。態度の評価は、この振り返りと第3次の発表を合わせて見る。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第1学年及び第2学年〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(1)ア・ウ・カ、(2)ア・ウ。〔知識及び技能〕(1)カ・ク、(2)ア、(3)エ。学年の目標は(2)。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

